

通常の学級に在籍する発達障害の可能性のある特別な支援を必要とする児童生徒に関する調査結果

平成 25 年 12 月 5 日に公表された標記の調査は、インクルーシブ教育システムを構築していくために、障害のある子どもの現在の状況を把握することが重要であることから、通常の学級に在籍する知的発達に遅れはないものの発達障害の可能性のある特別な支援を必要とする児童生徒の実態を明らかにするために行われました。

この調査は、発達障害のある児童生徒の割合を示すものではなく発達障害の可能性のある特別な教育的支援を必要とする児童生徒の割合を示すものです。担任教師の回答した内容から、全体の約 6.5%の児童生徒が「学習面又は行動面で著しい困難を示す」という結果が示されました。

主な結果は以下のとおりです。

ここに示された児童生徒は、**図 1**から**図 3**に示されるように緩やかな曲線を描いて切れ目なく分布しており、「著しい困難」とまではいえないが何らかの支援を必要としている児童生徒は 6.5%以外にも存在していることが分かります。

また、「学習面での著しい困難」「行動面での著しい困難」を示す児童生徒の割合をより詳しく示したものが表 4、男女別の集計結果を示したものが表 5 です。

これらの結果から、通常の学級に特別な教育的支援を必要とする児童生徒が存在すること、まだ著しい困難とまではいえないが何らかの教育的支援を必要とする児童生徒も存在することが明らかになりました。協力者会議ではこれらの結果を踏まえて、国などに求める今後の対応についてまとめています。

① 国や教育委員会に求める対応

- ・学級規模の縮小や複数教員による指導等の指導方法の工夫改善
- ・通級による指導の充実
- ・より早期からの対応に向けた「専門家チーム」の設置や巡回相談の実施
- ・医療、保健、福祉等の関係機関との連携

② 学校に求める児童生徒への支援

- ・校内委員会の効果的に機能させるなどの校内支援体制の工夫、改善
- ・校長の特別支援教育実施の責任者としてのリーダーシップ
- ・学習面や行動面で著しい困難を示すとされた児童生徒を含めた学級全体への指導の在り方の検討

これらを受けて、今後、国や教育委員会、また各学校において、特別な教育的支援を必要とする児童生徒への支援がより一層充実していくことが期待されます。

引用・参考文献

文部科学省. 通常の学級に在籍する発達障害の可能性のある特別な支援を必要とする児童生徒に関する調査結果について (報告). 2012.

資料 質問項目

質問項目

I 児童生徒の困難の状況

<学習面 (「聞く」「話す」「読む」「書く」「計算する」「推論する」)> ※1

- ・聞き間違いがある (「知った」を「行った」と聞き違える)
- ・聞きもらしがある
- ・個別に言われると聞き取れるが、集団場面では難しい
- ・指示の理解が難しい
- ・話し合いが難しい (話し合いの流れが理解できず、ついていけない)
- ・適切な速さで話すことが難しい (たどたどしく話す。とても早口である)
- ・ことばにつまったりする
- ・単語を羅列したり、短い文で内容的に乏しい話をする
- ・思いつくままに話すなど、筋道の通った話をするのが難しい
- ・内容をわかりやすく伝えることが難しい
- ・初めて出てきた語や、普段あまり使わない語などを読み間違える
- ・文中の語句や行を抜かしたり、または繰り返し読んだりする
- ・音読が遅い
- ・勝手読みがある (「いきました」を「いました」と読む)
- ・文章の要点を正しく読みとることが難しい
- ・読みにくい字を書く (字の形や大きさが整っていない。まっすぐに書けない)
- ・独特の筆順で書く
- ・漢字の細かい部分を書き間違える
- ・句読点が抜けたり、正しく打つことができない
- ・限られた量の作文や、決まったパターン of 文章しか書かない
- ・学年相応の数の意味や表し方についての理解が難しい (三千四十七を 300047 や 347 と書く。分母の大きい方が分数の値として大きいと思っている)
- ・簡単な計算が暗算でできない
- ・計算をするのにとても時間がかかる
- ・答えを得るのにいくつかの手続きを要する問題を解くのが難しい (四則混合の計算。2つの立式を必要とする計算)

- ・学年相応の文章題を解くのが難しい
- ・学年相応の量を比較することや、量を表す単位を理解することが難しい（長さやかさの比較。「15cmは150mm」ということ）
- ・学年相応の図形を描くことが難しい（丸やひし形などの図形の模写。見取り図や展開図）
- ・事物の因果関係を理解することが難しい
- ・目的に沿って行動を計画し、必要に応じてそれを修正することが難しい

<NEWCOLUMN/>

- ・早合点や、飛躍した考えをする
- （0：ない、1：まれにある、2：ときどきある、3：よくある、の4段階で回答）

<行動面（「不注意」「多動性－衝動性」）>※2

- ・学業において、綿密に注意することができない、または不注意な間違いをする。
 - ・手足をそわそわと動かし、またはいすの上でもじもじする。
 - ・課題または遊びの活動で注意を集中し続けることが難しい。
 - ・教室や、その他、座っていることを要求される状況で席を離れる。
 - ・直接話しかけられたときに聞いてないように見える。
 - ・不適切な状況で、余計に走り回ったり高い所へ上ったりする。
 - ・指示に従えず、課題や任務をやり遂げることができない。
 - ・静かに遊んだり余暇活動につくことができない。
 - ・課題や活動を順序だてることが難しい。
 - ・「じっとしていない」、またはまるで「エンジンで動かされているように」行動する。
 - ・(学業や宿題のような) 精神的努力の持続を要する課題を避ける。
 - ・しゃべりすぎる。
 - ・課題や活動に必要なものをなくしてしまう。
 - ・質問が終わる前に出し抜けに答え始めてしまう。
 - ・気が散りやすい。
 - ・順番を待つことが難しい。
 - ・日々の活動で忘れっぽい。
 - ・他人を妨害したり、邪魔をする。
- （0：ない、もしくはほとんどない、1：ときどきある、2：しばしばある、3：非常にしばしばある、の4段階で回答）

<行動面（「対人関係やこだわり等」）>※3

- ・大人びている。ませている
- ・みんなから、「〇〇博士」「〇〇教授」と思われている（例：カレンダー博士）
- ・他の子どもは興味を持たないようなことに興味があり、「自分だけの知識世界」を持つ

ている

- ・特定の分野の知識を蓄えているが、丸暗記であり、意味をきちんと理解していない
 - ・含みのある言葉や嫌みを言われても分からず、言葉通りに受けとめてしまうことがある
 - ・会話の仕方が形式的であり、抑揚なく話したり、間合いが取れなかつたりすることがある
 - ・言葉を組み合わせて、自分だけにしか分からないような造語を作る
 - ・独特な声で話すことがある
 - ・誰かに何かを伝える目的がなくても、場面に関係なく声を出す（例：唇を鳴らす、咳払い、喉を鳴らす、叫ぶ）
 - ・とても得意なことがある一方で、極端に不得手なものがある
 - ・いろいろな事話す、その時の場面や相手の感情や立場を理解しない
 - ・共感性が乏しい
 - ・周りの人が困惑するようなことも、配慮しないで言う
 - ・独特な目つきをすることがある
 - ・友達と仲良くしたいという気持ちはあるけれど、友達関係をうまく築けない
 - ・友達のそばにはいるが、一人で遊んでいる
 - ・仲の良い友人がいない
 - ・常識が乏しい
 - ・球技やゲームをする時、仲間と協力することに考えが及ばない
 - ・動作やジェスチャーが不器用で、ぎこちないことがある
 - ・意図的でなく、顔や体を動かすことがある
 - ・ある行動や考えに強くこだわることによって、簡単な日常の活動ができなくなることもある
 - ・自分なりの独特な日課や手順があり、変更や変化を嫌がる
 - ・特定の物に執着がある
 - ・他の子どもたちから、いじめられることがある
 - ・独特な表情をしていることがある
 - ・独特な姿勢をしていることがある
- (0：いいえ、1：多少、2、はい、の3段階で回答)

※1 <学習面（「聞く」「話す」「読む」「書く」「計算する」「推論する」）>の質問項目については、「LDI-R・LD 診断のための調査票」（日本文化科学社）を参考に作成。

※2 <行動面（「不注意」「多動性－衝動性」）>の質問項目については、株式会社明石書店の著作物である「ADHD 評価スケール」を使用。よって、同社に無断で転載、複製、翻案、頒布、公衆送信を行うことはできない。

※3<行動面（「対人関係やこだわり等」）>の質問項目については、スウェーデンの研究者によって作成された、高機能自閉症に関するスクリーニング質問紙（ASSQ）を参考に作成。